

国際かんがい排水委員会 (ICID)
第73回国際執行理事会の結果報告について

農村振興局

令和4年11月28日

農林水産省

目 次

【報告事項】

ICID第24回総会及び第73回国際執行理事会(IEC)の結果報告について.....	1
--	---

(参 考)

国際かんがい排水委員会(ICID)の概要.....	8
---------------------------	---

ICID日本国内委員会について.....	10
----------------------	----

世界かんがい施設遺産の登録済み施設(2014年～2022年).....	11
-------------------------------------	----

1 全体概要

- 第24回総会及び第73回IECは、2022年10月3日～10日にオーストラリア・アデレードで開催。
- 日本国内委員会から渡邊委員長ほか12名の委員及び事務局が参加した。

2-1 第24回総会の概要

- ICID第24回総会は、10月3日から6日まで、「SDGsを達成するための農業用水管理における革新と研究」をテーマに開催され、世界64の国・地域から出展者、学生、若手技術者を含む約2,000名が参加。
- 参加者は、プレゼンテーション、ポスター展示等を通じて、2つの問い(①ICTは、ラスト1マイル問題の解決にどう貢献しうるか、②SDGs達成に向けて学問分野間の対話が果たす役割は何か)を議論。
- 議論の内容を取りまとめた「アデレード2022宣言」を発表。

【アデレード2022宣言で取りまとめられた議論の主な内容】

- ・効率的・効果的な水利用を可能にする多くの新技術や革新的アプローチが活用可能。しかし、現場に適用できるまでに至っていない。
- ・セクター間の水利権の売買制度に関し、いくつかの国で運用がなされているが、将来が不透明な中で、他国が既往制度をそのまま活用することにはより慎重であるべき。
- ・地域社会は現場での行動推進の重要な役割を担っていることから、地域住民の適切な能力開発を通じたSDGsの理解促進と実施が必要。
- ・灌漑農業は、環境負荷となる側面が着目されがちだが、環境問題の解決策となる側面についても理解を得ていく必要がある。さもないと、規制当局や政治指導者は、灌漑農業に望ましくない制約を課し、結果として食料生産を損なう可能性がある。
- ・かんがい排水分野は、全ての経済活動に影響する水利用権を適切に維持していくため、農業と他分野での利用に係る効果的な対話を行っていく必要がある。



ICID第24回総会及び第73回国際執行理事会(IEC)の結果

2-2 第24回総会における主な議論内容

- 各国から紹介された取組内容の共通点は、「食料安全保障への貢献」、「気候変動対策の重要性」、「かんがい排水分野への投資促進」、「革新的技術の導入の推進」。
- 我が国参加者は、国内委員が論文を提出・発表する他、JICA及びJIRCASがサイドイベントを開催するなどにより、日本の取組事例等を紹介。
- 他の国・地域の発表においては、気象条件や制度の実態を反映した「限りある水資源の有効活用」、「水(利権)売買のあり方」といった内容も見られた。

【国際ワークショップ】

加藤委員「水環境保全のための低地水田における循環型灌漑方式 - 印旛沼水系における自然浄化施設の事例研究」



渡邊委員長「ウォーターレタス栽培で試行した蒸発散ベース灌漑のモデルと性能」



清水委員(雑賀委員代理)
「かんがい用水の食料生産と水力発電の2重利用」



杉浦委員「日本における社会的
水不足への制度的アプローチ」



【カントリーレポート】

木村委員「将来のかんがい排水管理に向けた統合的アプローチ」



【サイドイベント】



北田室長の挨拶(FAO-JIRCAS-ADB共催:
「水田の恩恵の最大化
- 水田の多面的機能と水管理」イベント)



2-3 第24回総会 エキシビションの状況

- 豪州企業(国際企業含む)105社が、かんがい関係機器、資材を展示。
- 遠隔監視・操作システム、かん水(節水、耐久性)資材、省エネシステムが主要な展示内容。

1 遠隔監視・操作システム(携帯端末を活用し、遠隔でほ場の情報入手し、作物成長や用水管理を総合的に監視。)



散水スケジュール設定

ドローンによる生育状況管理

土壌水分管理

2 かん水(節水、耐久性)資材(限られた水資源を効率的に使用するための素材、かん水方法に工夫)



耐久性の高い(虫害防止)硬質管

目詰まりによる破損や通水障害を防止するフィルター濾過装置

3 省エネポンプシステム(基幹施設や分水ゲートなど様々な施設に応じたシステムを提案)



揚水ポンプの動力源となるソーラーシステム

3-1 第73回IECでの活動結果

- 日本国内委員会委員は、IECにおいて所属する委員会/作業部会等に出席し、各テーマに則した発表及び議論を行い、各委員の知見と経験を活かした貢献と情報発信を行った。
- 他の参加国・地域から、洪水対策、水利組合(土地改良区)の運営等について、日本の知見と経験の共有が求められた。
- また、農業の多面的機能に関する発表も行われた。

